

令和6年第1回白馬村議会定例会 予算特別委員会 審査報告

本定例会において、予算特別委員会に付託された案件は予算審議5件です。5日間にわたり審査しました。各会計の予算書により慎重審査した概要を報告します。

議案第24号 令和6年度白馬村一般会計予算

予算規模は、歳入歳出それぞれ6億7百万円。前年度当初予算比6億5千万円の増は、ここ20年では最高額となった。基幹歳入の村税は1億4千3百万円。地方交付税は2億2千万円を見込んだ。

予算編成での重点的取り組み分野として、ゼロカーボンビジョンの実現、デジタルトランスフォーメーション（DX）、子育て支援・少子化対策、農地保全と地産、支え合う福祉と健康、世界水準を意識した観光、のそれぞれ推進を掲げる一方で、重点分野以外はこれまで同様の一般財源の、「枠配分方式」を採り、各課はその範囲での創意工夫を促した。

昨年末発生した黒豆沢土砂災害の復旧に加え、庁内DX化の加速など特殊事情と、実質公債費比率の18%超えを未然に防ぐための村債繰上げ償還のため、財政調整基金4千5百万円、減債基金1億6千2百万円をそれぞれ取り崩すとの説明がありました。また、ふるさと白馬村を応援する基金からの繰入金は4億3千8百万円と、大きく依存するものとなっています。

次に、各課審査の主な質疑・意見について、審査順に報告します。

総務課関係

問：DXスマートビレッジ推進計画の村民向け周知。また、GXコンサルティングの周知は。

答：今回はまずは庁内のDX化を推進するための計画。計画が進んだ段階で、事業者・村民向けのDXを進めていく。

GXの方はロードマップによって具体的なものが出てくる。ビジョンも具体的になるので、その段階で媒体を使って周知し行動に移せるようにする。

問：公共交通計画策定支援業務の内容は。業者委託しなければならないのか。また、AIデマンド型が来年度から本格運行するので、その状況をみてから立てるべきでは。

答：公共交通網形成計画から、今回は公共交通計画となる。間は空けられない。ネットワークの確保や充実に加え、サービス面を総合的に捉え、より拡充させた内容を盛り込めとの国の指示。分析する範囲が広がり地域のニーズ把握のため委託するが、業者任せにはしない。

問：DX化の書かない窓口等は、1年かけてのシステム構築か。次の冬の外国人転入騒ぎは解消されるのか。

答：開始時期は別々だが、全て令和6年度中に開始する。窓口対応は間に合うようにしたい。

問：災害に備えた備蓄品の予算は。女性目線の避難所運営として、生理用品などの備蓄が必要では。

答：備蓄品は防災事業の消耗品で毎年50万円前後の予算。今回は食料備蓄とトイレ便座袋の購入。生理用品や毛布など買うとなると予算の増額が必要。備蓄品全体の計画も含めて考えていきたい。

生涯学習スポーツ課関係

問：氷河調査は白馬沢の調査で終わりか。氷河はゼロカーボンや地球温暖化を考えるいい素材。観光資源にも活用できるので、永久凍土が確認できるところまでは調査していただきたいが。

答：ゼロカーボン施策として活用や経済効果は検討するが、村も財政的に厳しい状況から、一旦は6年度で区切らせていただきたい。新潟大学としては継続調査の意向があり、大学側で使える助成金等を活用しての継続はする。

問：伝建事業の計画策定委託料220万の内訳は。

答：事前アンケートでは地元の本音が引き出せず話し合う場を設け意向を伺う。現地調査で今後の優先順位を決め、石垣修理等の基準を定めていないものを定めていく。この1年で保存活用計画を策定し、しっかり将来像を明確にしていく。

意見：棚田も大事。担い手がいなくなり、田んぼを作らなければ石垣も崩れていく。住民が少なくなり、集落全体を維持させるには、観光客からしっかりお金を取って管理者を置いて管理した方がよい。

問：温暖化の中でBGプールのオープン時期と開設期間の工夫を。(暑すぎて)学校プールの利用も少ないので、うまく調整し活用できれば費用の削減になるのでは。

答：水泳教室の開催や、暑くなる日も早くなっていることから検討していく。

税務課関係

問：個人村民税で、6年度税制改正により4万円の定額減税に伴う減税分を5900万円とした算出根拠は。

答：予算編成期の関係から、4年分の所得を基に算出した。

問：固定資産税評価替えで1200万円増額計上とあるが、土地の上昇率は。

答：去年の当初課税との比較では、宅地・雑種地で約7.9%上昇している。

問：八方口の大型商業施設の地域未来投資促進法による固定資産税減免期間は

終了したか。

答： 終了した。

観光課関係

問： 観光交通と生活交通の混乗が心配。村民と観光客の金額が一緒なのはなぜか。

答： 混乗は冬の昼間を心配しているが、公共交通として始めた以上は対応しなければならない。運賃区分は法律上できないが、村民には定期券や回数券を考える。今後のことは始めてみないとわからない。

問： 八方池山荘建て替え計画は、今のスケジュールだと長すぎる。図書館複合施設は長くかけ過ぎてとん挫した。スピード感をもってやったほうがいいのでは。

答： 公共施設管理計画に令和 11 年オープンとあり、そこに向かって事業計画を立てている。準備期間が長いのは、参画する事業者の意欲や自ら出来る範囲を見つけて、それに基づいた選定の仕様書を作っていこうと考えている。

意見： 9 社が意欲を示し、さらに 2 社が強い意欲を示しているのであれば、設計もオーバーラップさせ競合させて提案させていけばいいと思う。

意見： コンセプトとしてゼロカーボンの象徴的なものにしていくならば、GX 統括監の協力を得ながら進めてほしい。

問： 観光地経営会議運営支援事業の日本交通公社（J T B F）委託料は高い。職員が作らないとノウハウが蓄積されないのでは。

答： 持続可能なガイドラインに準拠した計画を作っていくため、専門的なアドバイスが必要。現在との関連性も踏まえて J T B F と契約したい。

問： デジタル田園都市国家構想交付金事業（略称：デジ田）は、村内の事業者とにかくDXのプラットフォームに参画してもらえるかが大事。これまでの観光局がやっていたプラットフォームは参画事業者が少なかった。観光局の社員にならない事業者が多いのが根本問題だが。

答： デジタルリフト券の取扱いや電子感謝券を、社員でなければ使えないという形をとっていこうと考えている。メリットに引き付けられて社員になってもらいたいと思う。

意見： 観光局の事業計画にはK P I を設定させてほしい。K P I の一つが会員数だと思う。

住民課関係

問： ごみ分別促進アプリ導入目的とターゲットは。50 音順のデータは入るか。また、多言語化は。

答： アプリ導入は、区に加入されない方や、外国人ワーキングホリデーの短期間滞在者がターゲット。50 音順のデータは入り英語対応する。中国語対応は検討させていただく。

問： サンサンパークの公衆トイレの設備老朽化を県へ依頼してほしい。管理料は村が全額見ているが、いくらかでも県に見てもらえるように要望してほしいが。

答： 県議への要望書には上げており、大町建設事務所も現場確認している。引き続き要望は上げていきたい。

会計室関係

問： 大北農協から新たに口座振込手数料を要望されて予算計上との説明だが、指定金融機関を変える予定はないのか。

答： 指定金融機関の変更は考えていない。

議会事務局関係

問： 全協室の答弁席には、マイクがどうしても、もう 1 本必要では。

答： 検討する。

健康福祉課関係

問： ふれ A I 号の、家の前で乗降できる 28 人の決め方は。

答： 明確な基準はなく、いま現在運行している中で配慮が必要な人を社協と包括でヒアリングして抽出した。

意見： その 28 人については、福祉有償運送やライドシェアなど工夫したほうがいいと思う。

問： 権利擁護事業は、認知症患者が増加傾向になるなか、予防事業としてどのようなことを考えているのか。

答： 高齢者福祉計画の事業として、サービス一覧を載せたシニアガイドブック作っている。権利擁護に関しては、制度の理解を深め自分事として捉えてもらえる啓発をしていきたい。

問： 自立支援給付費で飯森のグループホームの会社が、飯田にも就労継続支援 B 型の施設を造ると聞いたが内容や進捗は。

答： 大町でやっている B 型作業所のサテライトの形で出来る。春以降に通えるような場にしていきたいと準備中だと聞いている。

問： コロナワクチンは今後どのくらいお金がかかって、どのような仕組みで補助されるか。罹患した場合はどのようにするか。

答： 価格は国からは明言されていないが、インフルエンザを例に試算の金額が示され、今回の予算はそれに基づき 65 歳以上の接種で計算している。医療費

補助の予算計上はない。

意見： 带状疱疹に罹ってしまうと高額な治療費が掛かる。年配者の罹患が多いので助成を。

農政課関係

問： 地籍調査に基づいた課税反映の今後の考え方は。

答： 中部地区が終わった段階で課税反映するということで、令和9年度評価替えで反映していく流れで進めているが、調査はまだ10年近くかかると考えている。

問： 完全に終わってからではなく概ね終われば課税していい。課税に向けて説明をして行かなければならないのでは。

答： 令和9年度評価替えで反映すると、庁内での考え方は統一している。年次計画を定めたばかりなのでタイミングを見て説明したい。

問： 有機JAS認定農家の補助金の仕組みと、有機JASを取らずに取り組む農家への支援は。

答： 補助対象は有機JASの認定をとった農家のみ。毎年認証を取る必要があることから認証経費補助と、新たに取り組む農家を支援する。村としても、ある程度基準を設けなければいけないと考えている。

問： 目標地図作成の地域計画は、白馬村の今後の農業を考えていくうえで重要と考えるが方向性は。

答： それが6年度の農政課の大きな柱の一つで、昨年度から農業委員会とも話し合いをしており、農業振興地域の見直しも行う。

問： 多面的機能交付金の村単事業はどこか、やり方は従来の同じか。

答： エリア的には木流川沿いの一部で、国・県の補助を活用して村独自の多面的事業を進めていく。

上下水道課関係 質疑なし。

子育て支援課関係

問： 施設型給付費・地域型保育給付費の分け方は。

答： 施設型の対象施設は白馬幼稚園のみ。地域型はファミリア白馬とサンライズキッズ白馬園の2つ。費用については国が定める公定価格に人数を掛ける。

問： 育休退園の解消の方向性は。保育士の状況もあるが不可能なのか。

答： 入園希望数が多い中で、育休退園される方がいることで、入れる方がいる。現状は育休退園をせざるを得ないが、子育て支援ルームの受入れ年齢を7か月から預かれる形にし、対応を少しずつ変えていきたい。まずは待機児童の解消が優先。それが整ったところで対応していきたい。

問： 第3の居場所の補助金を8か月分見ているということは、7月末ごろに開園か。希望人数はある程度把握しているのか。

答： 夏開園予定。現状、小谷村に常時8名、大町市にも数人行っていることから想定はしているが、明確な人数把握がないのは、突然居場所が必要になる児童生徒の受け皿となるがこの施設だから。

教育課関係

問： 給食費補助に関して議会は陳情を否決したが、行政側からはもう上げないということか。一食当たりの金額が上がることはあるか。有機給食は。

答： 補助を上げたい意思はあるが、予算ベースで試算したが、他の学校徴収金を勘案した中で今回は難しかった。

金額は栄養価の面から栄養教諭からは苦しいと聞いている。大町・池田・松川は上げると聞いている。白馬も上げざるを得ない状況だが、来年度は、保護者負担は変えない方向。公会計なので補正予算などで柔軟に対応できる。オーガニックは地場産が少なく年度当初からは組みづらい。

問： 教員住宅解体費が高額だが中身は。事業に国からの助成はないのか。軟弱地盤に病院を建て替えるのであれば、地中杭を抜かなくてもいいのでは。

答： 予算がないから先送りにしていたが、後に行けば行くほど財政が厳しくなるので今やるしかないという結論に至った。国の補助金は数年前から調べてはいるが起債も補助金もない。高額な理由はアスベスト除去代と、軟弱地盤の地中杭撤去に費用が嵩む。その地中部はなんとか残こさせてほしいと相談している。相手先の設計業者が決まり次第交渉していく。

意見： 安くできる解体業者もあることから、工夫して業者指名を考えていただきたい。

問： スクールバスは通年を目指すとのことだが、来年度の実証の中身は。通年運行にする場合も中学生を乗せるか。

答： AI デマンドとの関係で、タクシー乗車のやり取りをAI アプリで出来るかの検証を行う。バスを出す範囲や中学生を乗せることはこれまでどおり。

意見： 試験運行段階で保護者から色々な意見が出ているので、しっかり検討していただきたい。また、5年間の検証結果を議会に示していただきたい。

建設課関係

問： 村道の修繕に1億円超える予算が計上されているが。修繕の順番はどのように決めているのか。

答： 平成29年に道路調査を行い、優先順位を定めている。また、道路パトロールを行い、状況に応じて実施場所を決定している。

問： 景観パトロールは、課で行っている仕事を委託するのか、なにかプラスし

て委託するのか。その狙いは。

答： 現在、建物の届け出が 100 件程度ある中で、限られた職員でのパトロールでは非常に厳しいこともあり、初動の段階を建築業組合にお願いしたいと考えている。届出リストを共有した上で、届け出がない所での動きについても報告していただく。もう一つの狙いは、地元の業者からルールを守って頂きたいという思いがある。

問： 「もてなししつらえ」の英語版作成の考えは。文化の違いなどあることから、しっかり伝える必要があると思うが。

答： 英語版は予算化していないが、同感であり、英訳できる職員に対応させることで検討していく。

問： 県道の無電柱化工事が終了したときに、ケヤキもなくなり殺伐とした景観になると思うが、民地に木を植えるなど緑化の計画はないか。

答： ケヤキの代わりに、道路部分の中低木緑化はしていく。また、民地部分の緑化も進めていくようにお願いしていきたい。

討 論

課ごとの討論はありませんでした。

全体討論では、

賛成だが、ベストツーリズムビレッジを受賞した村としては、文化事業に対して予算をより付けて頂きたかったのと、観光振興の仕組みづくりの配慮が必要と感じた。

採決の結果、議案第 24 号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第25号 令和6年度白馬村国民健康保険事業勘定特別会計予算

予算規模は、歳入歳出それぞれ 10 億 8 千 10 万円。前年度比 49,172 千円の増。国保税は 2 億 560 万円、県支出金 7 億 25,519 千円、一般会計繰入金 1 億 4,588 千円、歳出の保険給付費は 7 億 16,633 千円を計上した。

質 疑

問： 広域で保険料を統一にしていく流れの中で保険料が上げられているが、均等割、所得割は全員上がるのか。また平均でどのくらい上がるのか。

答： 均等割りは全員。所得割は所得に応じてとなる。

問： 財政調整基金の残高と、保険料の増加分を基金での補填はできないのか。

答： 1 億 3 千万。赤字補填の取り崩しは、ペナルティーが入る可能性がある。

討論

赤字補填にならないという見解もある。県下自治体の中でも補填しているところもあることから予算案に反対。

採決の結果、議案第 25 号は委員長を除く委員多数の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第26号 令和6年度白馬村後期高齢者医療特別会計予算

予算規模は、歳入歳出それぞれ 1 億 3 5 5 3 万円。前年度比 25, 100 千円の増。保険料は広域連合資料に基づき 1 億 4, 657 千円、一般会計繰入金は 30, 585 千円を計上。歳出の広域連合負担金は 1 億 32, 420 千円。

質疑

問： 一般会計からの繰出金と、特別会計での繰入金での 3 千円の違いは。

答： 端数処理の差だが、若干誤りもある。

討論はなく、採決の結果、議案第 26 号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第27号 令和6年度白馬村水道事業会計予算

水道事業収益は 3 億 24, 222 千円で、前年度比 9, 378 千円の増。水道使用料は 2 億 71, 970 万円を見込んだ。

水道事業費用は 3 億 4, 270 千円で、前年度比 14, 866 千円の増額。二股浄水場運転管理委託料、メーター取替工事、上水道台帳補正・データ整備など例年経費に、排水及び給水の工事請負や修繕が約 1 千万円増える一方、動力費は 11, 000 千円の減額。

資本的収入は 1 億 6, 522 千円。駅前無電柱化移転補償費用、企業債、一般会計からの出資金。

資本的支出は 1 億 82, 677 千円で、無電柱化に伴う水道設備の移転費用、配水管布設工事 5 か所、機器更新工事 7 件などの工事請負費で 1 億 2 千万円。

質疑

問： 水道料金の見直しということであるが増額幅と時期は。

答：試算段階での理想では、5年後改定時に130%。その後5年で130%。審議会で答申を頂いた上で住民への説明を行い、議案を提出し改定していく。

問：二股浄水場建て替えにPPPの調査を行うとのことだが、想定している企業は。白馬の水の製品化を、PPPを利用して出来ないか。

答：水処理企業は多くあるが、事業規模でいくとなかなか難しい。しかし、白馬というブランド力もあることから、この調査で見えてくると期待している。水の製品化は、白馬錦が試験的に白馬の水を使用している。検討していきたい。

意見：料金値上げの意向があるなら、もっと厳しさをアピールしていただきたい。

問：無線検針の更新は希望者か。災害時にも漏水が把握しやすく良いシステム。導入は積極的に行っていただきたいが。

答：希望をとることは考えてなく、法によりメーター更新時期が決まっているため、その更新に併せていくが、エリアは検討している。

討論はなく、採決の結果、議案第27号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第28号 令和6年度白馬村下水道事業会計予算

下水道事業収益は4億85,247千円、下水道事業費用は4億81,703千円。

資本的収入は4億12,948千円、資本的支出は4億88,278千円。今回予算より企業会計に移行する農業集落排水事業分が加わり、セグメント（区分）計上される。大きな事業費では、し尿等投入施設整備実施設計業務に55,250千円。

一般会計からの補助金は、収益的・資本的合わせて3億37,830千円。

質疑

問：水道料金が価格改定になれば、下水道料金の改定も見込んでいるのか。

答：こちらは6年度以降に取りかかる予定。し尿投入処理施設やストックマネジメント、耐震化等の計画もあり、まだ更新費用が見えてこない。

問：し尿投入の小谷村の料金は、白馬村の料金よりも高くしてよいと思うが。

答：白馬村の施設を利用することや、管理を行わなければならないということもあり、その負担については小谷村の了解をいただいている。

討論はなく、採決の結果、議案第28号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上が審査報告ですが、審議中に村長・副村長に対して、次回からの本会議場での予算説明は、「予算の概要」によって行ってもらいたい。それによって予算編成方針や重点取り組み分野などを、傍聴や議事録公開を通じて村民にも知っていただけること。同時に議場での時間短縮が図られ、特別委員会での審議にもスムーズに入れるなど、複数の合理性があると考ええるもので、全会一致での要請とさせていただいたことを報告します。

同じく決算議会においても、同様の工夫を希望します。

以上で、予算特別委員会の委員長報告を終わります。